

室田 一雄・塩浦昭義：「離散凸解析と最適化アルゴリズム」朝倉書店の補足と訂正
(2013 年第 1 刷)

誤りを見つけた方は室田までお知らせくだされば有難く存じます。

- 14 頁 下から 1 行目：
下記のカラバのアルゴリズムである。
⇒
下記のアルゴリズムであり，本書ではこれをカラバのアルゴリズムとよぶ。
- 30 頁 命題 2.14 の直前：
この事実より ⇒ この事実と定理 2.8 より
- 157 頁 命題 13.2: 二つ目の文を以下のように変更してください。
したがって，貪欲アルゴリズムの反復回数は $\eta(p_0) \leq 2\Phi_g$ 以下である。
⇒
したがって，貪欲アルゴリズムの反復回数は $\eta(p_0)$ に等しく，これは $2\Phi_g$ 以下である。
- 162 頁 (14.5) の $f_2(x) = f(x) + \Gamma|x(N) - r|$ が M 凸関数になる理由：
注意 9.1 (113 頁) のようにして f, f_2 に対応する $n + 1$ 変数の関数 \tilde{f}, \tilde{f}_2 を定義すると， $\tilde{f}_2(x_0, x) = \tilde{f}(x_0, x) + \Gamma|x(0) + r|$ となる。この右辺は，M 凸関数と分離凸関数の和の形であるから，M 凸関数である。
- 203 頁 文献 44: to appear. ⇒ Series A, **145**, 163–177 (2014).
- 203 頁 文献 54: **23**, No.2 (2013), 掲載予定. ⇒ **23**, 233–252 (2013).

(以上)